

特別史跡常陸国分寺跡保存活用計画（案）に対するパブリックコメント募集結果

1. 実施期間：令和2年2月28日（金）～令和2年3月12日（木）
2. 提出方法：窓口持参・郵送・FAX・電子メール
3. 提出件数：1件（窓口持参）
4. 意見書に対する回答

No.	該当箇所 (ページ数・項目)	御意見	回答
1	「活用計画（案）」	<p>P82・第2節 方法</p> <p>(1) 学習の場としての活用</p> <p>「常陸国分寺跡」が学習の場として活用できにくいのは、国分寺の全体像が分からない、現地との整合がとれないので、具体的なイメージができにくいからである。</p> <p>「特別史跡常陸国分寺跡保存活用計画（案）」に記載されている「長期的には、調査研究成果を踏まえ整備公開を目指すとともに、指定地に隣接する場所に常陸国分寺跡を展示紹介する拠点施設を設けて、学習の場として利用を促進する」ことは理想であるが、予算的にも地権者等の理解を得ることからも、現状の史跡を大きく変更して、他の国分寺跡のような形にするには、大変難しいと考える。だから、現状をあまり変えずに、だれにでも常陸国分寺の全体像がわかり、現地との整合がとれて、具体的なイメージができる工夫が必要である。</p> <p>そのためには、隣接地のイベント広場に常陸国分寺跡の全体像がわかる模型と解説板を設置し、「常陸国分寺跡」に行く前に、国分寺と常陸国分寺の予習ができるようにしたらよいと考える。さらに、そこに歴史ボランティアが常駐して、解説したり「常陸国分寺跡」への案内が常時できるようにしたらよいと考える。また、歴史ボランティアは口頭だけではなく、国分寺の想像図や写真など、具体的にイメージできる物を使えるようにする。仮想現実を見せるVR（バーチャル・リアリティ）動画、VRゴーグルなども活用できればさらに効果的である。</p> <p>「常陸国分寺跡」の礎石や七重塔などの主な場所には、ガイドされなくてもある程度分かるミニ看板は必要である。また、P40の「図31 特別史跡常陸国分寺跡</p>	<p>現況が住宅地と寺院の境内ということもあり奈良・平安時代の様子が分かりづらい状況にあります。</p> <p>第7章、第8章に記載しました常陸国分寺跡の整備・活用については、事業計画を定めておりますが、対応可能な事項は、計画によらず実施・検討してまいります。</p> <p>説明板は、遺構の状況に応じた配置を検討するなど、ご提案のジオラマの設置を含め、多くの方に分かり易い学習・見学環境の充実を検討したいと考えております。また、市内のボランティア団体と連携・協力しながら案内活動を行うとともに、将来的には周辺の文化財を含めたVR等の技術を活用した取り組みを目指したいと考えております。なお、イベント</p>

		<p>主要伽藍配置図」のような図は、必ず必要であり、そのどの部分であるかも明示してあれば分かりやすいと考える。</p> <p>(2) 交流・憩いの場として活用</p> <p>「指定地の公有化を進めて、地域住民や市民・県民、また各地からの訪問者が利用できる、交流・憩いのオープンスペースとして提供する。また、古代常陸にふさわしい行事（イベント）を企画する。地域住民の参加を促し、地域に根付いた風物詩として定期的に開催できるよう、親しまれるあり方を目指す。」 この発想は、「常陸国分寺跡」を研究・学習の場としてとらえるだけでなく、市民の愛着・誇りを醸成するうえで、大変重要だと考える。先のイベント広場の施設と提携しながら、イベントなどを市民提案で積み上げていければと考える。</p> <p>さらに、その常陸国分寺のシンボルとして、七重塔は再現できないだろうか、先のイベント広場の一角に大阪の四天王寺のように鉄筋コンクリートの物でよいから作れば、具体的に国分寺の大きさとすごさが実感できて、「おまつりの獅子頭」だけでなく、「国分寺の町石岡」のシンボルとして価値がとても高いのではないだろうか。</p>	<p>広場の活用については、地中の埋蔵文化財の発掘状況を確認しながら、公共施設の見直し状況と併せ、活用の検討をしてみたい。</p>
--	--	---	---